
2015年度 岐阜経済大学

学内ゼミナール大会 参加論文

ゼミ名 岸ゼミナールB

テーマ 運動部活動における恋愛禁止は本当に有効なのか？
～アスリートの恋愛行動と競技意欲の関係～

参加者 小倉圭世 杉山淳一 清水翔 加藤千智 柴山恵 若浪有希 若林恵里奈

目次

1. はじめに
2. 方法
 - (1) 対象者と調査時期
 - (2) 調査内容
3. 結果と考察
 - (1) 対象者の恋愛形態の実態
 - (2) 恋愛形態別の競技意欲の比較
 - (3) 恋愛対象者の行動による成績向上の期待値の比較
4. まとめ
 - 引用・参考文献
 - 資料 アスリートの恋愛行動に関する調査用紙

要約

本研究では大学生のアスリートを対象として、男女別に恋愛対象者の存在が競技意欲および競技力向上への期待にどのような影響を及ぼすかを検討した。恋愛対象者の形態による競技意欲および成績向上の期待値を比較した。この調査の結果、恋愛対象者の有無、形態によって競技意欲に差は認められず、運動部活動での恋愛禁止は競技意欲という視点からは必要ないことが示唆された。また、恋愛対象者の形態によって、競技成績向上への期待値には有意差が認められ恋愛経験と競技成績の関連が主に性差から論じられた。

キーワード：アスリート、恋愛行動、競技意欲

1. はじめに

高校の運動部活動においては、スポーツ選手の恋愛禁止というルールが少なからず存在しているようだ。特に、女性のクラブで顕著であると思われる。本研究者らの多くも、運動部活動において恋愛が禁止されていた。

アスリートの恋愛はこれまで、「恋愛をすると競技力が低下する」「競技と恋愛の両立は難しい」などと、恋愛に対してネガティブなイメージがとて強く、指導者はアスリートの恋愛を禁止していると考えられる。特に、女性アスリートの恋愛禁止が多く存在していると予想される。その理由として、勝つことを目標に頑張っているときに、勝負師ではなく女になってしまうことがあり、競技に悪影響があるなどと捉えられて、恋愛はスポーツを行っている間は必要がないという考え方がある。一方で、男性は彼女にイイところを見せようとテンションが上がり大きな結果が生まれる事もあり、男女間で価値観が違うことが考えられる。しかし、女性の中にも恋愛をすることで競技意欲が上がり、競技能力の向上にもつながる人もいないだろうか。また、男性も女性と同様に恋愛が悪影響を及ぼしてしまうことがないとは言い切れない。

国民的アイドル AKB48 には、恋愛禁止条例がある。しかし、プロデューサーの秋元康氏はラジオ番組で、「恋愛禁止は一度も言っていない」と発言している。一方で、「スポーツと同じで、一生懸命やっていたらそんな暇はない」とも話していると伝えられている。このことが、メンバー内で暗黙のルールになっているようだ。これにより男性との交際が発覚して、自ら丸坊主にしたメンバーがいた。このような恋愛禁止は、人権侵害ではないかとの指摘もネット上で行われている。

部活動の恋愛禁止も人権侵害ではないかという議論もあるかも知れないが、本研究では、競技への影響について検討したいと考えた。そこで、恋愛感情や恋愛行動の影響についてのこれまでの研究を調べた。

多川（2003）は、恋愛の影響について、恋愛は精神的安定の他に意欲の向上をもたらす、相手に対する信頼感、本音を語り合う、相手に配慮して行動するといった側面を報告している。

さらに、中学生の恋愛行動に関する研究を行った丸井（2010）は、交際経験を有する者の半分以上が相手に相談したりたわいもない電話やメールをしたりすることによってリラックスすることができ、交際相手がいることによって、不安や反発心などが解消されるのではないかと報告している。

しかし、大学生の恋愛行動に関する研究を行った本田（2003）は、交際相手に制圧やストレスが生じている人が多いという結果を指摘している。

また、恋愛に関するものとして、片思いのメリット・デメリットについての研究がある。加藤（2012）は片思いのメリットとして、努力の喜び、愛することの幸せ、束縛されない自由などを指摘した。またデメリットとして、愛の共有ができない、愛の一方通行、告白恐怖、恋愛のドロドロを報告している。

アスリートの恋愛について、松本と山岸（2014）は、恋愛感情と競技成績の予期について検討し、現在つき合っていないものより片思いの方が競技成績への影響があると感じ、成績への期待が高いこと、そして、自分の生活の中で恋愛を重視しているものは、恋愛が成績を向上させると考えていることを報告している。

また、稲垣（2009）は、男性よりも女性の方が恋愛の部活動に与える影響が大きいことを指摘している。さらに、アスリートの恋愛と競技意欲について、松村（2013）は、恋愛をしている者は冷静に練習や試合を行えている。恋愛をしていないものは、より集中して競技に取り組むことができるということを報告し、男女間においては、男子の方が女子に比べて競技意欲への影響が大きいと述べている。

このようなことから、恋愛行動には様々な影響を有すること、そして片思いという恋愛形態も存在することがわかる。アスリートにおいては、性差が見られるもののその影響は一貫したものではないようだ。そこで、本研究では大学生のアスリートを対象として、男女別に恋愛対象者の存在が競技意欲および競技力向上への期待にどのような影響を及ぼすかを検討することを目的とした。ここでは交際の有無だけでなく片思いも含めて検討する。

2. 方法

（1）対象者と調査期間

アスリートの恋愛行動と競技意欲に関する調査を2015年7月から9月の期間、大学生200人、男性136人女性64人に実施した。対象者の年齢は18歳から26歳まで平均19.95±1.14歳である。競技経験年数は2年から15年であった。

表-1は対象者の男女別競技種目の内訳である。スポーツ種目は陸上競技で70人、次に駅伝25人、バレーボール41人、ソフトボール18人と続き、12種目に調査した。

表-1 対象者の競技種目

種目	男性	女性	計
陸上	59	11	70
駅伝	25	0	25
バレーボール	14	27	41
ソフトボール	0	18	18
バスケットボール	10	5	15
野球	19	0	19
サッカー	4	0	4
空手	0	1	1
バトミントン	3	0	3
ボート	0	1	1
レスリング	1	0	1
ソフトテニス	1	0	1
一般学生	0	1	1
計	136	64	200

（2）調査内容

調査内容は、フェイスシートとして、年齢、性別、競技種目、競技経験年数を問い、現在の恋愛状況について、「現在付き合っている人がいる」「片思いの相手がいる」「過去に付き合っていた人がいる」「恋愛経験なし」の中から1つ選択を求めた。

さらに、恋愛対象者の行動による競技成績向上の期待を質問した。これは、「交際相手が試合の応援にきた」「頻繁に連絡を取っている」という2つの設問に対して、成績が「上がる」「いづらか上がる」「変わらない」「いづらか下がる」「下がる」の5つから選択し

てもらい、恋愛対象者の行動によって競技成績が上がる期待値とした。

続いて、吉沢ら（1991）が作成した競技意欲検査（SMI：Sport Motivation Inventory）を実施した。これは、24項目からなり「やる気」「冷静さ」「闘士」「コーチ受容」「反発心」「不安」の6因子について、「1.まったくあてはまらない」「2.あまりあてはまらない」「3.ややあてはまる」「4.よくあてはまる」の4件法で競技意欲を測定した。

分析方法として、まず、対象者の恋愛形態を現在交際相手がいるものを「交際中群」、片思いの対象がいるものを「片思い群」、現在はいないが過去に交際していたものを「過去交際群」、これまで交際経験のないものを「交際なし群」の4群に分類し、SMIの6因子得点を比較した。また、恋愛対象者の行動による競技成績向上の期待値として、2つの設問の回答を数値化した合計点を求めた。そして、4群間の期待値得点を比較した。過去のアスリートの恋愛に関する研究においては、恋愛行動や影響には性差が認められていることから、本研究では、男女に分けて分析を行った。

また、4群間の差の検定には、分散分析を用い有意水準は5%未満とした。分析ツールは、Excelの「データ分析」を使用した。

3. 結果と考察

（1）対象者の恋愛形態の実態

表-2は対象者の現在の恋愛形態について男女別に集計したものである。男性では「交際中」は41人の30.5%、「片思い」は10人7.5%、「過去に交際したことがある人」は61人45.5%、「交際なし」は22人の16.4%であった。女性は、「交際中」が18人で28.0%、「片思い」が9人で14.0%、「過去に交際したことがある人」が32人50%、「交際なし」が5人7.8%という結果になった。この結果から、交際中と過去に交際したことがある人の割合は男女ともにほとんど同じような数値であったが、片思いは、女性は男性の約2倍の割合であり、逆に交際なしが男性においては女性の約2倍の割合であった。松村（2013）の調査では、男性の交際相手ありは18人交際相手なしが47人、女性の交際相手ありは14人で交際相手なしは28人であった。男性の場合は約3人に1人の割合で、女性の場合は、2人に1人の割合で交際相手がいることを示している。

表-2 恋愛対象の形態による人数と割合

性別	交際中	片思い	過去交際	交際なし	計
男子	41(30.5%)	10(7.5%)	61(45.5%)	22(16.4%)	134(100%)
女子	18(28.0%)	9(14.0%)	32(50%)	5(7.8%)	64(100%)

（2）恋愛形態別の競技意欲の比較

男女別に恋愛形態4群による競技意欲の比較を行った。表-3は、男性の4群間のSMI 6因子得点の平均と標準偏差、及び分散分析結果を示したものである。分散分析の結果、SMI 6因子、「やる気」「冷静」「闘志」「コーチ受容」「反発心」「不安」のすべての因子において4つの恋愛形態間で有意差は認められなかった。

表-3 男性の4群間におけるSMIの6因子得点の比較

因子	交際中	片思い	過去交際	交際なし	F値
やる気	8.6(9.1)	8.6(2.3)	9.2(2.6)	9.2(2.6)	1.48
冷静さ	8.9(5.4)	8.7(2.3)	9.4(2.6)	9.1(2.6)	0.61
闘志	7.7(5.4)	8.6(2.3)	9.4(2.8)	9.1(2.7)	0.68
コーチ受容	8.0(3.9)	8.9(2.2)	9.9(2.7)	9.2(2.8)	2.06
反発心	10.3(3.9)	9.9(1.6)	10.6(2.6)	9.3(2.8)	3.48
不安	9.6(3.9)	9.6(1.1)	10.1(2.5)	9.5(2.6)	0.53

表-4は、女性の4群間のSMI6因子得点の平均と標準偏差、及び分散分析結果を示した。分析の結果、すべての因子において4つの恋愛形態間で有意差は認められなかった。これらの結果は、松村(2013)の、交際相手が存在するアスリートはやる気が高く、冷静さが低いといった報告とは異なるものとなった。松村の研究では、恋愛対象者の有無という2つの分類であったため一概に比較することは難しいと考える。本研究では、男女ともにアスリートの恋愛形態によって競技意欲に影響を及ぼさないということが分かる。つまり、彼氏・彼女がいてもいなくても、片思い中であろうが、交際相手がいないとしても、恋愛行動と競技意欲との関連は認められないことを示している。従って、本研究結果からは、アスリートに対して恋愛禁止にするというルールは競技へのやる気という面からは必要がないといえる。

表-4 女性の4群間におけるSMIの6因子得点の比較

因子	交際中	片思い	過去交際	交際なし	F値
やる気	8.6(2.0)	8.7(3.2)	9.1(2.4)	9.0(2.7)	0.19
冷静さ	9.2(2.4)	9.0(3.3)	9.2(2.5)	9.1(2.8)	0.91
闘志	7.4(2.7)	8.7(3.3)	9.1(2.7)	8.7(2.6)	0.36
コーチ受容	8.2(2.6)	9.6(3.2)	9.7(2.7)	9.1(2.8)	2.18
反発心	10.1(2.8)	9.9(3.4)	10.0(2.9)	9.9(2.5)	0.15
不安	9.6(3.0)	9.2(3.1)	10.2(2.2)	9.4(2.3)	0.28

(3) 恋愛対象者の行動による成績向上の期待値の比較

表-5は恋愛対象者の行動による成績向上の期待値を男女別に4群間で比較したものである。数値が高いほど、「試合に応援に来た」「頻繁に連絡する」という交際相手の行動が成績向上につながるという期待の高さを示している。分散分析の結果、男女ともに1%水準で有意差が認められた。

表-5 男女別4群の期待値の比較

性別	交際中	片思い	過去交際	交際なし	F値
男子	6.9(1.4)	9.1(0.9)	7.5(1.1)	6.7(4.1)	8.1*
女子	8.1(2.9)	7.4(3.5)	7.0(1.8)	5.6(0.5)	4.2*

($p < 0.01$)

この結果をグラフ化したものが、図-1、2である。

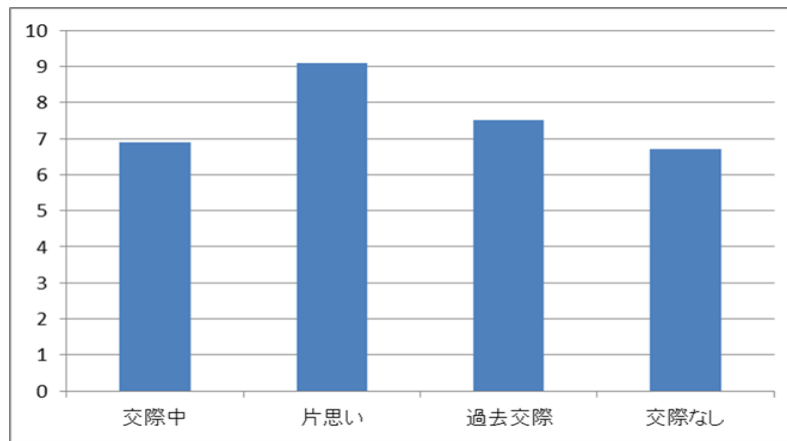


図-1 男性における4群間の期待値の比較

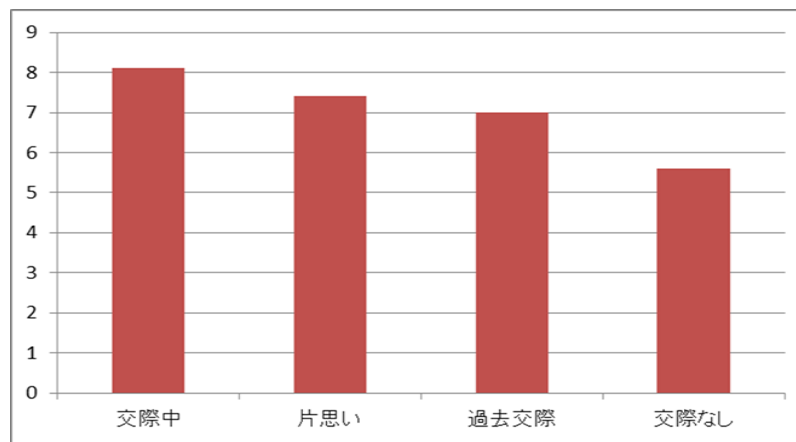


図-2 女性における4群間の期待値の比較

男性で最も高かった期待値は「片思い群」であった。次に「過去交際群」、「交際中群」と「交際なし群」は近似した値となった。男性の場合は、誰かに片思い中のアスリートは、その存在により競技成績が上がる期待が高いことを示している。次に、女性においては「交際中群」が最も高い期待値を示し、次に「片思い群」「過去交際群」と続き、1番低い期待値が「交際なし群」であった。女性の場合は、実際に交際中のアスリートは、その存在により競技成績が上がる期待が高いことを示している。

つまり、男女において、実際の交際相手と片思いの相手という違いがあるが、好きな人に試合に応援に来てもらうことや、頻繁に連絡とることでモチベーションが上がり、その結果が、競技成績の向上の期待につながっていると考えられる。逆に交際相手のいないアスリートは、そのような存在の行動がイメージできないために競技成績向上の期待ができないことを示しているようである。ここで気になるのは、交際相手のいる男性アスリートは、交際相手のいないアスリートとほぼ同様の低い期待値を示していることである。男性の場合は、交際が始まることで目的が達成されてしまい期待感につながらなくなるのか。考察が難しい結果となった。

松本と山岸（2014）の研究は、恋愛中よりも片思いの方が競技成績への影響があると報告しているが、この研究は男女を区別しないで処理をしている。本研究では男女に分

けて検討を行い、性差があることが認められた。

「試合の応援に来る」「頻繁に連絡する」といった恋愛対象者の行動が、自己の競技成績を向上させるという期待が最も高かったのが、男性においては片思い中のアスリート、一方女性においては、交際中のアスリートという異なる結果となった。女性では、交際中、片思い、過去交際、交際なしの順番となった。これは、現実の交際相手の存在、続いて交際はしていないが現実の恋愛対象の存在、そして過去に存在した恋愛対象、最後に現在も過去も恋愛対象が存在しないという順番となり、リアリティーの順番という意味で納得できるものである。しかし、男性においては、こうした法則は見られず、片思いが高いという結果であった。これは、男性はこの人と交際できたらというイメージをあれこれと膨らませて期待につながり、女性では現実的な交際相手の存在が期待につながっていると言える。つまり、男性は空想的であり、女性は現実的な側面が影響しているのではないかと考えられる。

4. まとめ

本研究では、大学生のアスリートを対象に恋愛対象の形態による競技意欲を比較・検討した。また、恋愛対象者の行動による成績向上の期待値を比較した。この結果、競技意欲では男女ともに有意差が認められず、恋愛形態はアスリートの競技意欲に関係がないということが分かった。つまり、運動部活動での恋愛禁止は競技意欲という視点からは必要ないことが本研究から導かれる。

また、恋愛対象者の行動による競技成績向上の期待値の比較から、男女ともに「交際なし群」が一番低い結果となった。恋愛対象者の不在は、自己の成績向上への期待につながらないものと考えられる。また、この期待値には、性差が認められ、男性は交際前の対象に期待し、女性は現実の交際相手に期待しているようだ。つまり、恋愛禁止をすることよりも、むしろ恋愛経験が競技成績の向上につながっていく可能性がある。片思いの男性アスリートは、彼女にカッコいいところを見せたいなど空想的に練習を行っていけば、競技成績の向上につながっていくかも知れない。しかしながら、本研究では、対象者が大学生のみであり、中学生や高校生では異なる結果となることは当然予想される。

今後の課題として、アンケート調査が大学生だけの対象であったこと、女性のサンプル数が少なく種目の割合などが偏ってしまったことで、限られた比較しか出来なかった。また、様々な競技種目によって恋愛が競技意欲に与える影響があるのかといった検討を今回は行うことが出来なかった。今後はこのような視点を加えて検討する必要があると考える。

引用・参考文献

- ・稲垣愛（2009）恋愛が女性アスリートに及ぼす影響について：平成21年岐阜大学卒業論文修士論文採録集/14.3
- ・加藤司（2012）男性は片思いの影響を受けやすい？片思いのメリット・デメリット尺度の開発：東洋大学社会学部紀要/49.115-126
- ・多川則子（2003）恋愛関係が青年に及ぼす影響についての探索的研究-対人関係観に着

目して-:名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学/50. 251-267

- 本田麻衣 (2003) 大学生の恋愛行動における性意識・性行動について:臨床教育心理学研究/29. 74
- 松村奨 (2013) アスリートの恋愛行動と競技意欲の関係:岐阜経済大学経営学部 演習論文集 (岸演習) /47-57
- 松本一輝・山岸明子 (2014) 恋愛感情と競技成績の予期との関連:順天堂スポーツ健康科学研究/66. 13-16
- 丸井淑美 (2010) 中学生の異性交際の有無とそれに伴う恋愛行動経験とその背景要因:教育学研究室紀要/8. 2-15

資料

アスリートの恋愛行動と競技意欲の調査

岐阜経済大学 経営学部 スポーツ経営学科
岸ゼミ：小倉・加藤・柴山・杉山・清水・若浪・若林

調査の目的

この調査は、アスリートの恋愛行動が競技意欲にどのような影響があるのかを検討することを目的としたものです。

この調査の結果は、ゼミナール大会の資料としてのみ使用され、統計的に処理されますので、あなたの個人情報が公表されることはありません。ご協力をお願いします。

問3. この調査は、あなたの競技に対する行動や考え方について調べるものです。正答や誤答はありませんので、質問にできるだけ正確に答えて下さい。

選択肢 1. よくあてはまる 2. ややあてはまる
 3. あまりあてはまらない 4. まったくあてはまらない

- | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---|
| 1. 新しい技術が身につくまで努力する。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2. 作戦通りに試合を進められる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 大きな試合になればなるほどファイトがわく。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 納得のできないプレイは、納得するまで練習する。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5. コーチから何度も同じことを言われるとイヤ気がさす。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6. 苦手な相手との対戦は避けたい。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. コーチの言うことなら素直に従う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. 試合に負けそうな時でも動揺しない。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9. 試合前に負けることばかり考えてしまう。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10. 大切な試合ほどうまくいくか心配する。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 11. 一つのことをやり始めたら最後までやらないと気がすまない。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12. 一流選手になるためにはどんな障害でも乗り切れる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13. 試合中、ミスをするのではないかと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14. 競りあっているときほど燃えてくる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 15. 試合運びがいいのはコーチの指示がいいからである。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 16. コーチから言われたことは、そのとおりに実行する。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 17. ミスをしてしても冷静に試合を続けられる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 18. コーチに反感を抱いている。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19. 試合中、精神的な強さを発揮できる。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 20. コーチの期待に答えたい。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 21. 自分より強い相手と試合することがすきである。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 22. コーチからいわれたことはそのとおりに実行する。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 23. 相手が強いほど闘争心がわく。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 24. 練習以外ではコーチと付き合いたくない。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

調査のご協力を感謝いたします。